

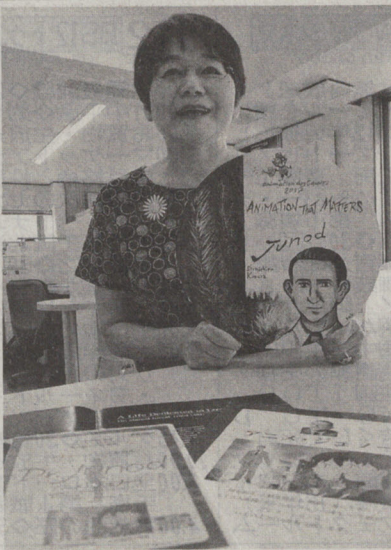
# アニメ映画「ジュノー」 仏で賞

## あす中区で上映 被爆者救護無償の愛描く

被爆後の広島に医療物資を届け、負傷者の救護に尽くしたスイス人医師マルセル・ジュノー博士を描いた長編アニメ「ジュノー」(2010年、60分)が、フランスの映画イベントで特別賞を受賞した。制作したNPO法人「モースト」(広島市東区)の津谷静子理事長(62)は「被爆の悲惨さだけでなく、広島を助けた人の善意も海外に広めていきたい」と話している。

イベントは20年以上続く「アニメーション・テイ・イン・カンヌ」。津谷理事長が4月に知り合ったイベント関係者から出品を依頼され、20作品以上から、特別賞「ANIMATION FATH MATTER AWARDS」を他の2作品と一緒に受賞した。

人間として成長する作品を対象とした賞で、「後世まで残すべきだ」との評価を受けた。イベントには各国のアニメ映画を配給する関係者らが来ており、米国や欧州から上映依頼が新たにきているという。



「ジュノー博士の思いを改めて知ってほしい」と話す津谷理事長(広島市東区で)

マルセル・ジュノー博士 1904～61年。アフリカや大戦中の欧州などで、医療活動に従事した。45年8月に赤十字国際委員会駐日代表として来日。連合軍司令部(GHQ)と交渉し、9月に医療物資15トンを広島へ輸送して、1万人以上の命を救ったとされる。自らも負傷者の治療にあたった。

必要とされると思う。被爆地から世界に発信していきたい」と話している。

18日に、広島平和記念資料館(広島市中区)で開かれる「ジュノー記念祭」にあわせ、午後2時から東館地下1階で上映される。無料。映画は広島を修学旅行で訪れた女子生徒らがタイムスリップし、ジュノー博士の生涯をたどるストーリー。国内の学校や公民館、美術館などで200回以上上映されている。